

佳作

新たな一歩を踏み出して

岩手県久慈市立侍浜中学校

3年 浅水 那奈

私は、昨年7月11日にバレーボール部からバドミントン部に転部しました。以前、バレーボール部で活動していた時は、私を含めて部員数が3人だけでした。一般的なバレー部としてはメンバー数が少ないと感じる方が多いと思いますが、それでも少ない人数の中で、他校との合同チームとして活動が続けることができていました。

しかし、3年生のメンバーが引退後、私一人となってしまう、転部をすることを先生に提案されました。私は、これまで部活動の中で培ったことや、バレーボールに対する思いがあり、正直、転部の選択肢を考えたくありませんでした。しかし、たくさん悩んだ結果、バドミントン部で活動することを決意し、転部をすることを決めました。

いよいよ、新しい環境での活動が始まりました。初めは、バドミントン部に入った実感が湧かず、あいまいな気持ちでいっぱいでした。けれども、同級生である親友が、明るい言葉をかけてくれたおかげで、

「私も、頑張ろう！」

と、思うようになりました。

転部して間もなく、初めての大会に出場することに決まりました。不安もたくさんありましたが、その大会では自分自身の予想よりも、よい成績を残すことができました。それをきっかけに、バドミントンの楽しさを感じる機会が増え、私の中のモチベーションが高まったのです。「強くなりたい」という思いを持ち、どんなにつらい練習でも、自分に負けずに努力をしようと、次の大会に向けて一生懸命に練習に励みました。

練習を重ねるにつれ、初めての大会の時と比べて、自分の中で成長したと感じることが増えました。それは、ラリーを続けて打ち合うことができるようになったことです。また、レシーブ力が全体的に向上しました。その反面、苦しかったことも多くありました。でも、落ち込むことはせず、前向きに考え、次の大会までに、

「どこを直そう。」

「どうすれば、できるようになるんだろう。」

と、反省を繰り返し、自主練習では、自分の弱みをなくすための練習を探し、取り組みました。私は特に、スマッシュに力を入れて取り組みました。スマッ

シュを速く打てるように力の加え方やフォームに気を付けて、繰り返し練習しました。また、バドミントンでは、ステップが大切なため、1回1回のフットワークを丁寧に行うことを、日々意識して練習に励みました。これらのことを意識して継続したことで、選手として一球一球の大切さに気付き、最後まで諦めないでシャトルを追うことができるようになりました。

さらに、バドミントンは、シングルスやダブルスの個人要素が重視されるスポーツだと思っていました。けれども、ペアの人と声をかけ合う中で、大切なことは自分が競技している時、していない時にかかわらず、チームとして仲間同士の絆・まとまりをつくっていくことが大事なんだとわかりました。

私は、中学3年で、部活動は引退となりました。転部をして気付いたことは、うまくなるためには、短い期間でも自分次第で変われるということです。携わった日数などの時間の多さではないのです。私は、周りの友達や仲間に比べて、バドミントンを活動した時間は少ないですが、一つ一つの動きの練習を丁寧に行い、どんな練習でも手を抜かないで全力で取り組むことができたことが、上達につながっていたんだと、はっきりと言えます。

私は中学校卒業後、高校の部活動でもバドミントンを続けていこうと思っています。中学での経験を生かして、さらにレベルアップできるように、頑張っていきたいです。

これから高校受験に向けて、困難にぶつかり、悩むことも多くあると思います。しかし、どんなつらいことがあっても挫折せずに、前向きな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。また、次の人生のステップである高校生活を送っていく中で、楽しいことばかりでなく、大変なことや大きな壁にぶつかることもあると思います。でも、そこで心折れることなく、前に向かって、何事にも挑戦していきたいです。